

渋川医療センター 広報誌



渋川へそ祭り（写真提供：渋川市）

毎年7月に開催されていた渋川へそ祭り。今年は暑さを避けるために9月の開催となりましたが、この日も残暑厳しく、おなかに描かれた顔からも祭りの熱気が伝わってきました。

基本理念

北毛地域の基幹病院として地域の医療機関と連携し、その役割を果たします。

基本方針

1. 患者さんの気持ちに寄り添った医療を実践します。
2. 十分な情報を提供し、共に考える医療を行います。
3. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児（者）の専門病院として社会に貢献します。
4. 地域医療支援病院として、救急医療を含め地域の医療機関と連携し地域医療に貢献します。
5. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します。
6. 教育・研究事業に積極的に取り組み、質の高い医療を常に目指します。
7. 良質な医療を継続的に確保するため、健全な経営と適正な運営に努めます。

【目次】

HCUについて	1
群馬MCLS標準コース開催報告	2
てんかんセミナーを開催しました	3
寄付者へのお礼	3
第75回毎日書道展「毎日賞」を受賞して	4
職場紹介	
リハビリテーション科	5
認定看護師紹介	
がん化学療法看護認定看護師	6
シリーズ	
●患者さんにとって耳よりな情報 「薬の服用時間と食事の関係について」	7
「ちょっと気になる！血液型の世界」	8
●外来診療担当医表	9
●セカンドオピニオン担当医表	11
●患者さんの権利	11
●看護の理念、看護の基本方針	11
●編集後記	11



HCUについて

HCU室長・救急診療科部長 山岸 敏治

令和6年7月1日、渋川医療センターにHCUが開設されました。1か月の試験運用を経て、8月1日より正式運用が始まっています。HCUとはHigh Care Unitの略で、高度治療室と呼ばれます。高度救命救急センターなどに設置されているICU(集中治療室)と一般病棟の中間的な位置づけの病棟で、重篤な患者や重篤になりそうなリスクの高い患者を受け入れて治療を行う場所となります。看護体制は一般病棟より手厚く、モニターなどの監視装置や除細動器や人工呼吸器などの医療機器の配備が充実しており、重篤な患者の管理を行うだけでなく、急変にもすぐに対応できる環境が整っています。入室対象は、大手術後の患者や、意識障害や呼吸不全、心不全、ショック、肝不全、腎不全、糖尿病、外傷などの重篤な状態の患者となります。ベッド数は4床で、大きな窓のある明るい病室となっています。そのうちの1床はスライディングウォールで完全に仕切ることができ、陰圧装置も設置され、新型コロナウイルスや結核などの隔離が必要な感染症を合併している患者を収容することもできます。また、透析が行える配管も整備されており、緊急透析も可能となりました。

渋川地区には高度急性期病床が不足しており、これまで重篤な患者の診療の多くを前橋地区や高崎地区などの高度急性期病院に頼ってきましたが、HCUの開設により、ICUまでは必要としないような比較的安定している患者であれば、ある程度対応が可能となりました。重篤な患者を受け入れていくことで医療のレベルも看護のレベルも向上することが期待され、地域の基幹病院として、地域のみなさまに良質な医療を提供できるよう努めてまいります。



群馬MCLS標準コース開催報告

救急診療科・総合診療科医長 高橋 栄治

2024年8月17日、当院において第27回群馬MCLS標準コースを開催しましたのでご報告をさせていただきます。

MCLSコースとは、日本災害医学学会が認定する局地災害現場対応者養成研修で、電車事故や多重事故など近隣で起きる多数傷病者事案において、現場で災害医療に従事する消防や警察、医療機関職員などを対象とした研修会となります。

内容としては、災害医療に従事する者として知っておくべき災害の基本的知識である「CSCATTT（すしあんじょうほうようばしょとり）」の理解と現場を想定した机上シミュレーション、トリアージの実践的な実習からなります。

これまで本研修の群馬県での開催は、基幹災害拠点病院である前橋赤十字病院でのみの開催でしたが、北毛地域（渋川、吾妻地域、利根沼田地域）の方々により多くの受講の機会を提供することを目的として、今回北毛地域で初めて（群馬県では前橋赤十字病院以外で初めて）、当院で開催させていただきました。

今回の開催では、北毛地域の方を中心に県内全域から受講枠の数倍にも及ぶお申し込みを頂き、当院職員2名を含む24名（医師5名、看護職5名、医療機関職員2名、消防職員12名）の方にご参加頂きましたが、聞き慣れない言葉や考え方に四苦八苦されておられる方もおられる中、多職種での開催ということもあり普段では経験のできない他機関でのディスカッションやトリアージの訓練など経験され、終了時には皆さん一様に満足した様子でおられました。

今後も当院として北毛地域ひいては群馬県の災害医療に貢献すべく継続して本研修を開催させて頂けたらと存じますので、機会がございましたら是非とも皆様にもご参加頂けたら幸いです。



てんかんセミナーを開催しました

ソーシャルワーカー 山浦 美和子

令和6年8月24日、てんかん支援拠点病院の事業の一環として、てんかんセミナーを開催しました。

当セミナーは、市民の皆様にてんかんについてより知っていただくために「てんかんを学ぼう!」シリーズとして年に2回開催しております。

今回は国立精神・神経医療研究センターの谷口豪先生をお招きし、「てんかんと向き合い方」について講演いただきました。てんかん患者さんが抱えるのは発作だけでなく、こころの悩みを抱えている方もおり、そのような心理社会的問題や精神症状に対しても支援していく必要があること、また家族のQOL(心の健康)は患者さんのQOL(心の健康)に影響を与えることから家族への支援も重要であることをわかりやすくお話いただきました。

セミナー終了後にはえびカフェを開催しました。「えびカフェ」とは、てんかん(エピソード)のある方やその周りの方が自由にお話できる場所(カフェ)として、2023年度よりセミナーとあわせて開催しています。コロナ禍で他の人と会って気持ちや情報の共有がしづらくなった中で「同じ病気を持つ方やその家族とお話したい」という声が聞かれ、ささやかながらその場所の提供が出来ればと始めたのがきっかけです。今回は14名の方が参加してくださいました。まだ3回目と経験は浅く、参加対象者も当院通院中の方・その家族と限定しておりますが、今後も継続して開催し、QOL(心の健康)向上のお役に立てればと思います。

次回は令和7年2月15日に開催予定です。てんかんセミナーはどなたでもご参加いただけますので、ぜひ一緒にてんかんについて学びましょう。



高橋章夫院長



国立精神・神経医療研究センター 谷口豪先生

令和6年度 寄付者一覧

心温まるご支援をいただき誠にありがとうございました。

皆様のご意向に沿いますよう、有効活用に努めてまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ご寄付をいただいた際に公表をお許しいただいた方のみを掲載しています。

茂木 正弘 様 (渋川市)

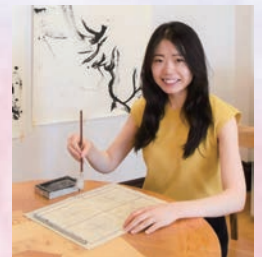
第75回毎日書道展「毎日賞」を受賞して

薬剤師 栗原 りか

この度私事ですが、趣味である書道で、第75回毎日書道展（主催・毎日新聞社、毎日書道会）毎日賞を受賞することができました。この受賞は薬剤部はじめ、病院スタッフの方々の支えあつての受賞です。ありがとうございます。受賞について新聞に掲載され、院長はじめ、たくさんの方に祝福の言葉をいただきました。第75回毎日書道展は全国から約2万3000点の作品が出品され、7月10日～8月4日に国立新美術館、東京都美術館で開催されました。

書道は小学2年から書道好きの祖父の手ほどきを受け、高校で書道部に所属し、「書の甲子園」とも言われる国際高校生選抜書展で全国優勝を果たしました。その後も書道を学び続けたいと思い、現在でも高校時代の師匠の下で学んでいます。展覧会では師匠が専門とする「前衛書」と呼ばれる部門で受賞しました。前衛書は文字を素材としますが、素材の文字から解放され、書体や書風をこえて、造型、点や線の気脈、筆脈によるリズム感、墨色、余白などの美しさを表現するものと考えています。墨の濃淡、かすれと潤滑感の比などを生み出す筆の使い方を追求するのが楽しいです。書のインスピレーションは群馬の自然から受けることが多く、谷川岳・尾瀬などの散策風景から影響を受けています。書に携わっていない方にも、力強さや美しさ、何かを感じてもらえるような表現ができるよう努力したいと思っています。

日々の業務では、調剤業務のほか、患者さんへの服薬指導と副作用対策や処方提案、病棟スタッフからの相談応需、チーム活動、調剤薬局との連携など幅広く携わらせていただいています。外来がん治療認定薬剤師として、がん治療と戦う患者さん、様々な苦痛・疼痛をもつ患者さんに関わり、感謝の言葉に支えられています。また、スタッフの協力・支えを受け、気持ちよく働ける職場環境に感謝しています。今後もより良い病院、安心・安全な医療を提供できるよう務めたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。



理学療法士長 増淵 和宏

<理学療法部門>

当院の理学療法士は12名で、様々な資格および経歴を持つ療法士が在籍しております。担当する疾患は多種多様で、整形疾患や神経疾患、消化器や呼吸器の手術前後の患者さまや、放射線治療・抗がん剤治療に伴う入院中のサポートを行っております。また、国立病院機構としての使命である政策医療も担っており、重症心身障害児(者)や結核患者さまへの介入も実施しております。

当院は北毛地域の基幹病院であり、その理学療法士として、地域の患者さまを支え、より良い医療が提供できるよう日々精進して参ります。

<作業療法部門>

作業療法部門は7名で、様々な資格を持ったスタッフが在籍しております。がん、呼吸器疾患、脳血管疾患など各診療科に対応したリハビリテーションに従事し、結核、重症心身障害児(者)といった政策医療にも関わっています。また、2名のDMAT隊員が在籍しており、災害医療にも関わっています。さらに、ニューロモデレーションセンター(脳神経外科)、乳腺・内分泌センター(乳がん)、ハンドケアセンター(手外科)といった専門領域でのリハビリテーションにも関わっています。当院において多職種連携を行うにあたり、チームの一員として患者さまの治療に関われるよう取り組んでいます。

<言語聴覚部門>

言語聴覚療法部門は現在4名で活動しており、医師の指示のもと、患者さまのコミュニケーション面や嚥下機能(食事や水分の飲み込みの力)の評価、訓練を行っております。また、てんかんやパーキンソン病の手術を行う方に対して、手術前後の評価や検査を行います。

また、必要に応じて医師をはじめ多職種と相談しながら嚥下内視鏡検査(VE検査)でさらに詳しく嚥下機能評価を行ったり、週に1度のNSTラウンドで多職種とチームとなり、低栄養の患者さまのもとを訪問し、より安全に栄養摂取を行うための検討を専門的な立場からアドバイスさせていただいています。

これからも多職種と協力しながら、より良い医療を提供できるよう日々励んでいます。



認定看護師紹介



がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法看護認定看護師

星野 由佳 / 山口 友久

がん化学療法看護認定看護師は、がん化学療法に関する専門的な知識・技術を持ち、抗がん剤の安全な取り扱いと適切な投与管理を行い、副作用症状の緩和およびセルフケア支援を行う役割を担っています。

当院ではがん化学療法看護認定看護師が2名在籍し、治療を受ける患者さんや家族へ、副作用に対する予防的介入やケアを実践し、患者さんの抱える苦痛を少しでも軽減させ、治療が完遂できるように努めています。退院後も安心して過ごせるように、

入院中から退院後の生活を見据え、患者さんの生活や習慣にあわせたケアの方法を一緒に考えています。治療をしても、趣味や仕事など、やりたいことができるように支援することで、その人らしく過ごせることを大切に考え、医師や薬剤師など多職種と協力しながら薬剤管理指導やセルフケア指導を行っています。

当院では抗がん剤の曝露予防にも積極的に取り組み、安全な投与管理に取り組んでいます。また、がん化学療法を安全に施行できるよう、看護師の院内認定教育制度を整え、看護師の専門知識・技術の向上のため指導を行っています。近年、新規薬剤の開発や新規レジメンによる治療など、がん化学療法は進歩を続けており、分子標的薬だけでなく、免疫チェックポイント阻害剤を使用した治療も増えています。従来の抗がん剤治療とは異なった有害事象への対応やケアが求められ、看護師も最新の薬剤の知識を正しく身に着けることが必要です。

がんは化学療法だけでなく、手術療法や放射線療法など、さまざまな治療を行い、治療後も定期的な支援が必要となります。当院にはがん関連の専門・認定看護師が複数名在籍しており、看護外来で看護相談を受けられるように体制を整えています。がん性疼痛の緩和や精神的な不安、経済的不安などにも対応できるよう、多職種と連携を図りながら、患者さんや家族が必要とする支援を提供できるよう、今後も努めていきたいと思っております。

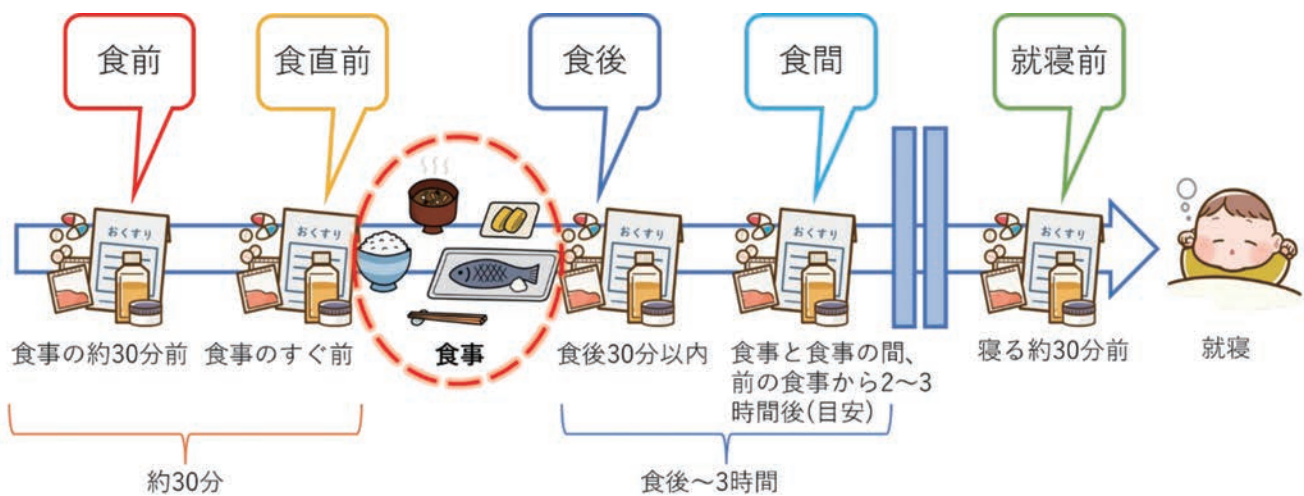




薬の服用時間と食事の関係について

薬剤師 杉田 浩城

薬の効果を最大限に引き出すためには、服用時間と食事の関係を理解することが重要です。薬によっては決められた用法で飲まないとも効果が十分に発揮されず、副作用が出やすくなる場合があります。今回は薬の用法を守ることがなぜ大切なのかを紹介します。



① 食前に服用

食前とは食事の約30分前で胃の中に食べ物が入っていない状態を指します。胃の粘膜に接して効果を出す薬(アルロイド®G)や、胃に食べ物が入っていない方が効果の良い薬(グーフイス®等)は食前に服用します。

② 食直前に服用

食直前とは食事のすぐ前(0~10分前)を指します。食事による血糖上昇を抑えるための薬(ミグリトール、ボグリボース等)は食後に服用すると、薬の効果があらわれる前に食事による血糖上昇が起きてしまいます。逆に服用が早すぎると低血糖のリスクがあります。

③ 食後に服用

食後とは食事の30分以内で、胃の中に食べ物が入っている状態を指します。特に指示がなければ薬は通常食後に服用します。胃粘膜を刺激するため胃腸障害を起こしやすい薬(ロキソプロフェン等)は食後に服用する必要があります。

④ 食間に服用(空腹時に服用)

食間とは食事の2~3時間後が目安で胃の中に食べ物が入っていない時です。例えば朝食と昼食の間といった食事と食事の間を指し、食事の最中ではありません。胃に食べ物がないほうが吸収や効果が良い薬(エンテカビル、ピラノア®等)は食間に服用します。(日常生活を考慮して空腹時に服用が必要な薬は、起床時や寝る前の用法が多いです)

⑤ 就寝前に服用

就寝前とは就寝する約30分前を指します。睡眠のリズムを改善する薬(ラメルテオン等)、服用すると眠くなる薬(ゾルピデム、プロチゾラム、デエビゴ®等)は就寝前に服用します。薬を服用したら床に入るようにしましょう。

⑥ さいごに

薬による治療効果を最大限に引き出すために、これまでに述べた用法のポイントをふまえ、医師の指示や薬剤師の説明をよく聞いた上で服用をお願いします。



ちょっと気になる! 血液型の世界

臨床検査技師 時澤 実花

血液型と聞くと、A型・O型・B型・AB型の4つが思い浮かぶかと思います。この4つの血液型は1900年に発見され、現在はABO血液型として広く知られています。血液型はこの他にも+や-で表現されるRh血液型や2019年に日本発の血液型として発見されたKANNO (カノ) 血液型など、100年以上経った現在でも新たに発見されており、その数は400に上ります。

今回は血液型検査について“気になる”!をピックアップ



気になる! A型っぽいと言われた! 血液型が性格に影響する?

そもそも血液型とは血液中に存在する赤血球という細胞をグループ分けしたものです。血液型による性格診断や占いなどには科学的根拠はありません。しかしながら近年、血液型によってなりやすい病気、なりにくい病気があることが分かってきています。



気になる! Rh-で珍しいと言われた! どれくらい珍しいの?

日本人におけるRh-の割合は0.5%、白人は15%なので比較すると非常に低頻度なことがわかります。また日本人のABO血液型の割合はA型40%、O型30%、B型20%、AB型10%とされていますので、「AB型Rh-」の方は2000人に1人となります。

ちなみにABO血液型は世界的にみるとO型45%、A型40%、B型11%、AB型4%の割合です。



気になる! 血液型検査と言われ2回も採血された! 1回じゃダメなの?

あってはならないことですが患者さんの取り違えや検査間違いがあった場合、炎症や貧血を調べる検査などでは症状や前回の検査結果などから間違いに気が付くことが出来ます。しかし血液型検査においては非常に困難となります。

国が定めた指針にも血液型の検査に関しては「異なる時点で採血した検体で検査した結果が一致することを確認する」と明記されています。

安全で安心な医療を提供するために、ご理解いただければ幸いです。





澁川医療センター 外来診療担当医表

(令和6年10月1日現在)

診療科	時間帯	月	火	水	木	金
一般内科	午前 (予約)				モリ カズヨ 森 一世	
	午前				カワシマ チエコ 川島 智恵子	
循環器内科	午前	ナカノ タカヒデ 中野 考英(北関) (第1,3,5週) ヤマギシ トシハル 山岸 敏治 (第2,4週)	マツオ ヤエ 松尾 弥枝(北関) (第1,3,5週) イワサキ トシヤ 岩崎 俊弥(北関) (第2,4週)	ヤマギシ トシハル 山岸 敏治 (第1,3,5週)(予約制) クリハラ ジュン 栗原 淳(心血セ) (第2,4週)		ヤマギシ トシハル 山岸 敏治
	午後				ナカシマ クニキ 中島 邦喜(北関) (第2週) ツボイ エイトシ 坪井 栄俊(北関) (第4週)	
脳神経内科	午後		クロサワ リョウジ 黒澤 亮二(太記)	ヤナギサワ タカユキ 柳澤 孝之 (第1,3,5週13:30~)		ミチザキ ヒトミ 道崎 瞳(群大)
呼吸器内科	午前	オオサキ タカシ 大崎 隆	アライ フヒト 新井 史人(群大)	クワコ トモヒト 桑子 智人	シン ユウキ 申 悠樹	クワコ トモヒト 桑子 智人
	午前	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	ムラタ ケイスケ 村田 圭祐	ツチャ ユキコ 土屋 友規子	サクライ レイコ 櫻井 麗子(群大)	ワタナベ サトル 渡邊 寛
	午前	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	オナガ ノリアキ 砂長 則明(群大)	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	オオサキ タカシ 大崎 隆	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘
	午前		マスタ トモミ 増田 友美(群大)			
	午前から 14時迄	オチアイ マイ 落合 麻衣	オチアイ マイ 落合 麻衣	オチアイ マイ 落合 麻衣		オチアイ マイ 落合 麻衣
	午前		ワカマツ イクオ 若松 郁生(群大)		クロイワ ユウヤ 黒岩 裕也(群大)	
内分泌・ 代謝内科	午前			ヨシノ サトシ 吉野 聡(群大)	ショウダ ヨシヒト 正田 純史	シミズ トモヒコ 清水 智彦
	午後	シミズ トモヒコ 清水 智彦	シミズ トモヒコ 清水 智彦	ヤマダ マサノブ 山田 正信(群大) (第1週 14:00~)		ヤマダ マサノブ 山田 正信(群大) (第3週 14:00~)
小児科 (重心のみ予約制) 小児神経(てんかん)予約制	午後			イノウエ フミタカ 井上 文孝(重心)		
	午後	イダ クニコ 井田 久仁子 (小児神経)				
血液内科	午前			アカシ ナオキ 明石 直樹		
	午前	カナヤ シュウヘイ 金谷 秀平	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	マツモト モリオ 松本 守生	マツモト モリオ 松本 守生	ミハラ マサヒロ 三原 正大
	午後 (予約)		オガワ ヨシユキ 小川 孔幸 (第3週)			
	午前	サイトウ アキオ 斎藤 明生	ミハラ マサヒロ 三原 正大	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	インダ アツシ 磯田 淳	サイトウ アキオ 斎藤 明生
	午前	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃		カナヤ シュウヘイ 金谷 秀平	イリウチシマ ヒロノ 入内島 裕乃	オオサキ ユウヘイ 大崎 洋平(群大)
	午後		サワムラ モリオ 澤村 守夫			
消化器内科	午前	ナカジマ ヨシミ 中島 良実	サトウ ヒロコ 佐藤 洋子	ヤマザキ ユウイチ 山崎 勇一(群大)	ムラカミ タツマ 村上 正真(群大)	オオシマ ケイイチ 大島 啓一
	午前	キムラ ユウコウ 木村 有宏	スガ タカシ 須賀 孝慶	ヒロカワ トモユキ 廣川 朋之	ナガシマ タモン 長島 多間	スズキ ヒデユキ 鈴木 秀行(原野日赤)
緩和ケア科 (予約制)	午後	コバヤシ ゴウ 小林 剛		ホシノ シュンヤ 星野 隼矢	コバヤシ ゴウ 小林 剛	ホシノ シュンヤ 星野 隼矢
精神腫瘍科 (予約制)	午後	マジマ タケヒコ 間島 竹彦	マジマ タケヒコ 間島 竹彦		マジマ タケヒコ 間島 竹彦	
放射線治療科 (予約制)	午前	マツウラ マサナ/カミヌマ タクヤ 松浦 正名/神沼 拓也	カミヌマ タクヤ/ナカムラ ユウジ 神沼 拓也/中村 勇司	カミヌマ タクヤ/クワコ ケイコ 神沼 拓也/桑子 慧子	カミヌマ タクヤ/クワコ ケイコ 神沼 拓也/桑子 慧子	カミヌマ タクヤ/クワコ ケイコ 神沼 拓也/桑子 慧子
	午後	クワコ ケイコ 桑子 慧子	マツウラ マサナ/クワコ ケイコ 松浦 正名/桑子 慧子	ナカムラ ユウジ/マツモト エイミ 中村 勇司/松本 瑛美	マツウラ マサナ 松浦 正名	マツウラ マサナ 松浦 正名
	午前	ナカムラ ユウジ 中村 勇司				
麻酔科	午前		ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆			ウチハシ ヨシタカ 内橋 慶隆
	午後			セキモト ケンイチ 関本 研一 (ペインクリニック外来)		

外来受付時間 8時30分～11時00分 注) 担当医変更の場合もございますので、予めご了承ください。

※眼科の月曜日診察は紹介状をお持ちの方とご予約されている方のみ受診できます。

※整形外科は初再診にかかわらず、原則完全予約制です。

※第1・3・5水曜の循環器内科は完全予約制です。

※原則、午後は予約診察のみとなりますが、★印の診察については受付時間は15:00までとなります。

※(予約)と記載がある場合は、予約患者さんのみの診察となります。

※再診予約の方については16:00まで再来受付機での受付が可能です。

※やむを得ない事情により突然の休診や診療医師変更もございます。ご了承願います。

◎予約変更について 受付時間: 平日13~17時 TEL.0279-26-3010 (予約専用)

TEL.0279-23-1010 (代表)

診療科	時間帯	月	火	水	木	金
消化器外科	午前	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	ヨシナリ ダイスケ 吉成 大介	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文	マキタ フジオ 蒔田 富士雄	タナハシ ヨシフミ 棚橋 美文
	午後		イチオカ ケン 市岡 健	スケガワ シンサク ★助川 晋作 (肛門科・消化器外科) (第1, 3, 5週13:30~)	術前外来	
	午前		ヌマガ ユキ 沼賀 有紀		タカハシ ケンゴ 高橋 研吾	
	午後				術前外来	
呼吸器外科	午前	ヤマキ エイ 八巻 英		カワシマ オサム 川島 修		カワシマ オサム 川島 修
	午前			オノサト リョウイチ 小野里 良一		ヤマキ エイ/オノサト リョウイチ 八巻 英/小野里 良一
脳神経外科	午後			ヒラト マサブミ 平戸 政史 (予約)		シマウチ ヒロヤ 島内 寛也(群大) (14:00~)
	午前	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 【予約制】高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司	タカハシ アキオ 高橋 章夫	ゴウダ ツカサ 合田 司
	午後			ミヤギシマ タカアキ 宮城島 孝昭		イベ ヨウコ 伊部 洋子(群大)
	午前		ヒラト マサブミ 平戸 政史		ヒラト マサブミ 平戸 政史	
	午後 (予約)				ヒラト マサブミ 平戸 政史	
ニューロ モデュレーション外来	午後			★ニューロモデュレーション外来 14:00~		
整形外科 (予約制)	午前	フリタ トシロウ 割田 敏朗	ヨコヤマ ナオアキ 横山 尚明		カナザワ サエコ 金澤 紗恵子	
	午後			オカムラ コウイチ 岡邨 興一 【リウマチ専門外来】		
	午前				術前外来	
	午前	カナザワ サエコ 金澤 紗恵子	術前外来 10時まで	イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一	ヨコヤマ ナオアキ 横山 尚明	フリタ トシロウ 割田 敏朗
	午後	ハンドケア		イツカ ヨウイチ 飯塚 陽一		
泌尿器科	午前	タムラ ヨシミ 田村 芳美	タムラ ヨシミ 田村 芳美	インザキ マサノリ/ホリ ケイスケ 石崎 正徳/堀 慶典	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿
	午後 (予約)	タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿		タムラ ヨシミ 田村 芳美	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿
	午前	ホリ ケイスケ 堀 慶典	ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿	タムラ ヨシミ 田村 芳美	インザキ マサノリ 石崎 正徳	インザキ マサノリ 石崎 正徳
	午後 (予約)	ホリ ケイスケ 堀 慶典			インザキ マサノリ 石崎 正徳	タムラ ヨシミ 田村 芳美
	午前 11時迄				ヨシハラ タダカズ 吉原 忠寿	
耳鼻咽喉科	午前			オカモト アヤコ 岡本 彩子		オカモト アヤコ 岡本 彩子
皮膚科	午前	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美	タカハシ アユミ 高橋 亜由美
	午前	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂	キムラ ミノル 木村 成穂
甲状腺科	午前	ヨコタ トオル 横田 徹	ヨコエ タカオ 横江 隆夫	ヨコタ トオル 横田 徹		ヨコエ タカオ 横江 隆夫
	午後 (予約)			ヨコタ トオル 横田 徹		
乳腺科	午前	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子	ヨコタ トオル 横田 徹	サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子		ヨコタ トオル 横田 徹
	午後 (予約)		ヨコタ トオル 横田 徹			ヨコタ トオル 横田 徹
乳腺・甲状腺科	午前		サトウ アヤコ 佐藤 亜矢子	ヨコエ タカオ 横江 隆夫		
眼科	午前					
	午後 (予約)		グンダイシ 群大医師	グンダイシ 群大医師		
	午前	アサトリ ヨウスケ 朝鳥 洋介(群大)				
歯科口腔外科 (休診)	午前 (初診)					
	午後 (再診)					

セカンドオピニオン担当医表 (令和6年10月1日現在)

科 別	予約時間	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後3時30分～	吉井 明弘	—	吉井 明弘	—	—
呼吸器外科	午前中	川島 修	—	—	—	—
血液内科	午後2時～	松本 守生	—	—	—	—
乳腺・甲状腺外科	午後2時30分～	—	—	横田 徹	—	—
消化器外科	午後	—	—	—	吉成 大介 沼賀 有紀	—
放射線科	午後3時～	—	中村 勇司	松浦 正名	—	—
緩和ケア科	午後	小林 剛	—	—	—	小林 剛
皮膚科	午後3時～	高橋 亜由美	—	—	—	—
泌尿器科	午後3時30分～	—	—	—	—	田村 芳美
脳神経外科	午後	—	—	宮城島 孝昭	—	—

※対象者：原則として患者さん本人、患者さんの同意を得た家族 費用：30分毎に5,500円

※お問い合わせ先：TEL0279-23-0626 地域医療連携室(直通)

患者さんの権利

1. 最善の医療サービスを受ける権利
2. 人格・人権を尊重される権利
3. 知る権利
4. 自己決定権
5. プライバシーを保護される権利

がん相談支援センター

- がんに関するご相談は「がん相談支援センター」でお受けします。
担当：ソーシャルワーカー
電話：0279-23-1010(代)
(受付時間は平日8:30～17:15です)
- メールによるご相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail：207-ShibukawaMC_mbx@mail.hosp.go.jp

看護の理念 患者さんの立場にたち、心あたたかく、信頼に応える看護を提供します

看護の基本方針

1. 患者さんの尊厳と権利を尊重し、共に考える看護を実践します
2. 患者さんの気持ちに寄り添い、思いやりとまごころを込めた看護を実践します
3. 根拠に基づいた、安全で安楽な質の高い看護を実践します
4. 地域の人々と連携を図り、患者さんの生活の質の維持・向上に努めます

編集後記

朝晩は少し秋の気配を感じるようになりましたが、まだまだ暑い日が続いています。体調を崩しやすいので皆さまご注意ください。私もですが……。さて今回は、薬剤師の栗原さんが第75回毎日書道展で「毎日賞」を受賞したことを紹介させていただきました。想像力や感性に富んだ作品を拝見し、心が癒される思いです。書道はハードルが高いので、手軽にできるペン字でも始めてみたいとなりました。皆さんはどうでしょうか。(T.S)



独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター

〒377-0280 群馬県渋川市白井383番地 電話 0279-23-1010(代) FAX 0279-23-1011

【ホームページ】<https://shibukawa.hosp.go.jp>